
こんな俺にしかできないこと

阿蘇峰 大河

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

こんな俺にしかできないこと

【Nコード】

N2316BA

【作者名】

阿蘇峰 大河

【あらすじ】

ちよつと以上にシリアスな展開から始まる。ストーリー。

主人公、橘たちはなかある薫は自分の下らない一言で親友の存在を否定し、転校まで追いやった。

そして彼は誰かと接するのが怖くなった、自分がまた誰かを傷付けてしまうのではないかと。そうして彼は誰かと関わるのをやめた。そんなある時、傷付けてしまった幼馴染が自分のいる高校に転校してきて!?

そんな、人助けしか人と接することのできない主人公の幼馴染と

の再会から始まる恋愛の物語。

1 話（前書き）

いままでの自分とは180度変えてみた、現、状況からの初作品です。

1話

『座右の銘』

意味 座右の銘とは、行動の戒めとするために日常的に心に留めておくための言葉。『文選』に収められた後漢の崔？（崔子玉）による文章「座右銘」に由来する。

w i k i p e d i a ・ 参 考

誰かが俺を一言で言い表すなら、『人間不信』

人を傷つけるのが異常なまでに怖い、そんなだめな奴だ。

4年前、中一の時の事だ。

幼稚園からの幼馴染の親友を自分のふざけたたった一言で、存在を否定し、転校まで追いやった。

もしもあの頃に戻るのなら、今やり直せるなら、全力であいつのことを受け入れたい。

こんな駄目やろうな俺でも。

1 話（後書き）

更新が遅いですが気長に待って下さると嬉しいです。

2話（前書き）

最低週一は投稿したいです。

2話

4月、それは出会いと別れと季節。

桜舞い散る桜並木を歩きながら俺、橘薫は釈然としない気持ちで高校生活2年目を迎えようとしていた。

ただ進学したのはたった一つの理由からである。

過去に精神的傷を負わせてしまったあいつを見つけて今度こそ許されるのなら誤って受け入れたいとゆურიゆうだ。

入学式は普通に過ぎ、皆各教室に向かった。

2-Cそれが俺の新しい教室だった。

担任は松本先生だった。

「んじゃ、これから1年間よろしく。まず自己紹介から始めようか」自己紹介は出席番号順に進んでいき俺の番が来ると、

「出席番号9番、橘薫だ。あまり声をかけないでくれ、以上だ」周囲からはザワザワとなにやらいわれるが俺の気にしたことではない。

明るい空を小鳥が飛んでいき、高校生活2年目が始まった。

授業は午前で終了。

街中を通りながら自宅に向かう。

「あの、ちよつといいかい？」

いかにも想定年齢80を超えているだろうおばあさんに声をかけられた。

「ここら辺の清水とゆう家がわかるかい？」

「住所ってわかりますか？」

「んとねえ、
-
なんだけどねえ」

「地図を使って説明するのが苦手なので、よかったら案内しますよ？」

「そうかい、ありがとうねえ」

おばあさんを見失わないように案内していく。ついでに荷物も持つ。

「多分こいです」

「おお、ここだよありがとねえ」

「いいえいいえ。では」

せめてもの罪滅ぼしとして、
 ありがた迷惑になるかもしれないが
 人助けは基本的に行う。

改めて自宅に向かう。

今の自分の容姿は、前髪が目の辺りにかかるぐらいの髪、黒ぶちのメガネ。

身長は173と普通ぐらいの人間だ。

信号前、キヨロキヨロと辺りを見渡しながら歩道を信号が赤なのに歩いてる少女がいる。

赤だつてきずいてないのか！

俺は急いでそこに荷物を置き歩道を駆ける。

「~~~~ツ!？」

どうやらやっと今の状況を理解したらしい。

一度陸上のスポーツ推薦がかかったぐらいは足の速さには少し確
信はある。

彼女を持ち上げて向こう側に運べるほど力はないので突き飛ばす。距離からするとギリギリ少女はたすかりそうだ。

ザーと車はそのまま通り過ぎ、なんとか多少怪我した程度ですんだ。

「あ、あの大丈夫ですか？」

「なんとかな、あんたこそ怪我ねえか？強引に突き飛ばしちまった」

けど」

「おかげさまで平気です」

「ならいいな、じゃあな」

向こうにおいてきたカバンを取りに行こうと立ち上がるが、かなり強引に足をすったようだ。

血が流れているが平気だろこんくらい、痛いが。

「あ、の名前を教えてもらえませんか私はしm」別に名のれるほどいいやつじゃねえんだ、じゃあな」あの、ちょっと」

足の痛みをこらえながらカバンを拾い、家に向かう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2316ba/>

こんな俺にしかできないこと

2012年1月5日23時47分発行